佐賀市教育研究所ニュースレター

木漏れ陽 9月

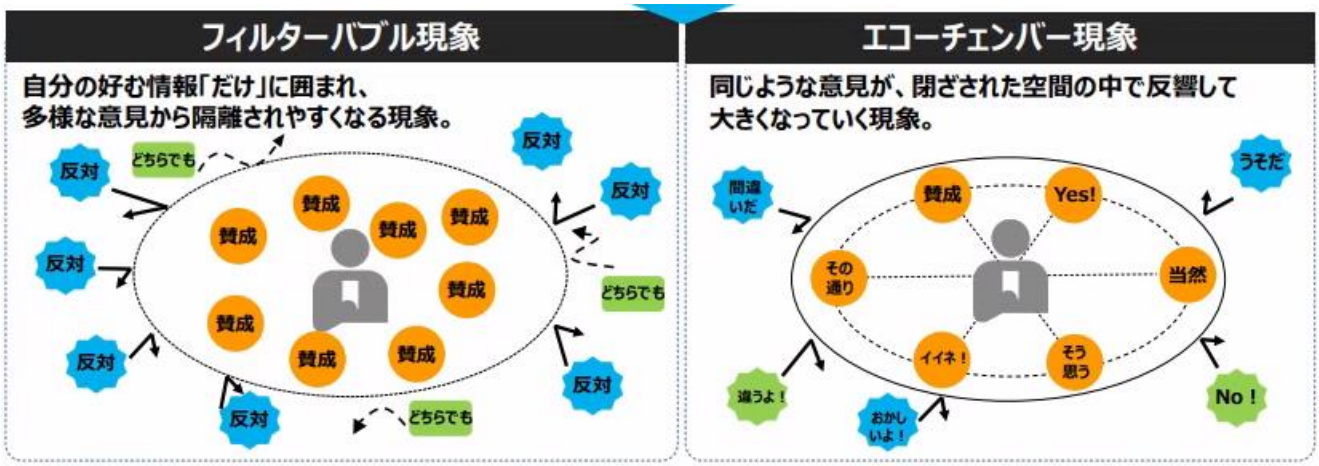
令和6年9月9日　第81号
発行　佐賀市教育研究所
発行責任者 所長 青柳正文

やっぱり「学校」って必要！

私はネット通販が大好きです。近くの店で売っていないものを手軽に手に入れることができますし、買いに行く手間も省けるからです。しかし、「こんなものにも興味はありませんか？」「よく見られている商品はこちら！」のような表示につられて、ついついその画像をクリックしてしまい、だらだらと無駄な時間を過ごしてしまったり、時には余計なものまで買ってしまったりすることもあります。

外出先のどこで昼食をとるか話題になった際、一緒にいたある方が「〇〇〇に行ってみましょう。」と、私の知らない、あるレストランを提案されました。行ってみると、最近オープンした、とてもおしゃれでおいしそうなレストランで、多くのお客さんが順番待ちをされていました。その方に、なぜこんなに人気があるレストランを知っているのか聞くと、「インスタ」に出てきたとのこと。「私のインスタには出てきませんが…」と言うと、どうやら、おすすめのレストランをよく検索しているからではないかということでした。

これら２つの事例は、以下の２つの現象と関係がありそうです。「フィルターバブル現象」については、今年度の４月に実施された、全国学力・学習状況調査の中学校国語の問題にも取り上げられていました。



「初等中等教育段階における生成 AI の利用に関する暫定的なガイドライン」(文部科学省 初等中等教育局)より引用

「フィルターバブル」にしても「エコーチェンバー」にしても、自分の好みや似た意見などに囲まれているという点では共通しています。どちらも、ネットが発達した社会に生きる我々が知っておく必要のあるものだと思います。

そんな世の中だからこそ、自分と好みも意見も違う人たちが集まり、多様な考えに囲まれながら学ぶことができる「学校」って、絶対必要だと思うのです。自分の信念をもつことはとても大事なことですが、一方で周囲と関わりながら、様々な意見を受け入れたり、折り合いを付けたりすることも同様にとても大事なことであり、そんな力を身に付けることができるのが「学校」なのではないでしょうか。
そして、そんな「学校」で働く「教師」という仕事は、とてもやりがいのある仕事ですし、「学校」に携わる仕事ができる環境にいられることをありがたく思っています。みなさんはいかがでしょうか？

（ 学 校 教 育 課　　義 務 教 育 指 導 係 指 導 主 事　　野 中 亮 彦 ）

個人研究相談　第1回研究所員会　初任者研修

① 夏季休業中に個人研究の相談会を行いました。2学期は、実践の授業提案を参観させていただきます。

勧興小　榎津教諭　国語・社会・体育の複数教科から個別最適な学びを目指します。

神野小　藤井教諭　理科専科の立場から課題設定を手立てとして探究的な学びを目指します。

川上小　豆田教諭　合意形成「なるほどタイム」を活用した学級活動の実践を目指します。

富士小　角田教諭　算数科において全員が自分の考えを表現できる授業づくりを目指します。

② 8月5日に令和6年度第一回の研究所員会を行いました。委嘱状交付の後、三部会（国語部会、算数・数学部会、協働的な学び部会）に分かれて、まず　学習状況調査の分析の分担や、弱み（不十分）の部分を向上させる授業提案をするための話し合いを行いました。分析は、8月末までに完成し、小中学校にもアップする予定です。授業提案は、2学期末に各部会ごとに行いますが、研究所員全員の指導案もアップします。研究授業もオンラインやリモートで配信予定です。是非ご覧ください。

③ 佐賀市小中初任者研修会　　６９名の初任者の先生も、指導教員や先輩の先生方に支えられて研修を重ねています。アンケート（初任者の声！）を読まれて声をかけていただければ幸いです。

〇小学校同士や校種が違っても抱えている悩みが似ており、安心して活力が湧いた。

〇子ども任せにしない必要性を学んだ。私もプロとして励みたい。

〇相談することを恐れず、先生方と協力して頑張ろうという気持ちになった。

◇仕事の優先順位が分からない。

◇授業の組み立て方（国語・生活）・道徳の授業づくりが分からない。

◇子ども主体の授業ができない。

◇職場の先生と上手くコミュニケーションがとれない。

（教育研究所指導員　権藤順子）

学校問題解決サポート相談をご活用ください

学校問題解決サポート相談員として３年目になりました深川です。皆様には平素よりお世話になっております。また、本事業への御理解、御協力をいただき感謝申し上げます。

さて、２学期が始まり、皆様いかがお過ごしですか？この原稿を書いている今日(8/23)は、オリンピック、お盆が過ぎ、また高校野球の決勝戦も終わりました。ツクツクボウシの鳴き声も何となく物悲しく聞こえています。皆様、年々急増する学校課題への対応等に悩んでいらっしゃいませんか？

そして、ふと世界に目を向ければ、終わりの見えない戦争に苦しむ人々の姿、気候変動の影響を受けた恐ろしい自然災害や頻発する地震。人類共通の解決すべき課題への対応は待ったなしなのに人類はどこに向かっているのか・・などと考えているとますますブルーになってしまいます。そんな時、**「この世界は希望がないように見える時がある。だが、私はこれに抵抗する希望の未来を語らねばならない。」**という先人の言葉を思い出します。そして、自分にできることをやるしかない、と。

私は、この仕事を通して、学校だけでは解決が困難な課題へのアプローチのために、佐賀市教育委員会の一員として何らかの形で支援や協力をさせていただきたいと考えています。どうぞ気軽にお声かけください。実際にお話を傾聴すること、ケースに応じて専門機関や担当者を紹介してつなぐこと等、できることはきっとあります。急激な教育環境や社会環境の変化の中で、『誰一人取り残さない』学校を実現するためには、自分だけで抱え込まないで、あらゆる課題にチームとして対応できる体制の構築が急務です。その『チーム学校』にぜひ私達も関わらせてください。よろしくお願いします。

（学校問題解決サポート相談員　深川千幹）